



東大150年

—かえりみる、生み出す、つながる—

第5回 カウントダウンイベント

東京大学  
公開講座

第141回 2025年秋季

# 人間の 在り方、 生き方



10/4<sup>±</sup>

12:50~16:25

テーマ

「生きる形」

10/25<sup>±</sup>

13:00~16:25

テーマ

「人はどう生きるべきか」

11/8<sup>±</sup>

13:00~16:35

テーマ

「ありのままの姿」

会場：東京大学安田講堂〈文京区・本郷キャンパス〉

※安田講堂は、バリアフリー対応となっています。

**対象** 社会人・一般／大学生／高校生 **定員** 500名(各日)

**受講料** 各日3,000円 (事前申込が必要です)

※高校生以下は無料(各日先着200名まで)

※高校生以下として申し込まれる場合も、事前申込が必要です。

※文京区ふるさと納税返礼品「公開講座申込券」をお持ちの方も事前申込が必要です。

※各日の開場は12時を予定しています。

※オンライン配信は行いません(すべての講座ではありませんが、後日、東大TVにて視聴できますので、そちらをご視聴ください)。

※やむを得ない事情によりプログラムを変更する場合がございます。ご了承ください。



第141回 2025年秋季  
東京大学公開講座



第141回東京大学公開講座  
企画委員会 委員長  
**寺田 寅彦**  
(総合文化研究科長)

## 開講にあたって

「たとえ明日世界が滅びることを知ったとしても、私は今日リンゴの木を植える」という、マルティン・ルターという言葉として知られる格言があります。絶望的な状況に直面しても人間は希望と忍耐力を忘れず、生きていくために行動しなくてはならないという教えです。現在、わたくしたちを取り巻く環境は大きく変化しています。命の危機であることもあれば、常識を打破するテクノロジーの飛躍的な進歩ということもあります。

生活が根幹から変わっていくこと、定説が覆されることを、人間は幾度も経験してきました。しかしそれはたんなる破壊なのではなく、故きを温ねて新しきを知るように伝統と革新の対話から生まれる発展の積み重ねであり、それゆえに人間はそのような変化を積極的に受け入れたのでしょ

う。東京大学は2027年に創立150周年を迎えます。わたくしたちは一世紀半にわたる長い時間の流れの中で、人間の在り方と生き方の変容を反映しつつ成長してきました。今わたくしたちは、人工知能やロボット工学のように、人間の存在を根底から問いかける技術革新の進展を目の当たりにしていますが、これは既存の価値観の終焉なのでしょうか、それとも途方もない飛躍へのワンステップなのでしょうか。本公開講座では多様な分野と観点からこのパラダイムシフトを検討します。どのような「リンゴの木」をわたくしたちが植えることができるのか、新たな価値観が次々と生まれる時代の人間の在り方と生き方について考え、大きく変貌していく未来に向けて学びを深めます。

# 10月4日(土)「生きる形」

12:50 ~ 12:55

東大150周年イベントについて

理事・副学長 津田 敦

12:55 ~ 13:00

開講の挨拶

企画委員長／総合文化研究科長 寺田 寅彦

13  
..  
00  
..  
13  
..  
40

## DEIの視点から考えるテクノロジーと人間の生き方 情報学環・教授 田中 東子

20世紀後半から21世紀にかけて、フェミニズム、批判的人種理論、クィア理論の広がりとともに、DE&I(多様性・公平性・包摂性)の視点は、私たちの「在り方」や「生き方」を考えるうえで、非常に重要な価値基準となってきました。しかし近年では、生成AIの実装や、テクノロジーの発展がもたらしたインターネット空間と現実社会の融合といった現象により、これまで社会が築いてきたはずの価値、たとえばジェンダー平等や人種差別への批判、マイノリティの包摂といったDE&Iの成果に対して、反動的な動きも広がりつつあります。本来、人間の幸福と発展のために活用されるべきテクノロジーが、なぜ排除や分断、不平等をもたらしてしまうのでしょうか。このパラドックスについて、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。



13  
..  
50  
..  
14  
..  
30

## 現代社会に対するハンナ・アーレントの警告 総合文化研究科・教授 國分 功一郎

ハンナ・アーレントは20世紀の初頭にドイツに生まれ、後にアメリカに亡命したユダヤ系の女性哲学者です。全体主義についての鋭い考察で知られています。彼女の考察を出発点に、現代社会について考えていきます。



14  
..  
40  
..  
15  
..  
20

## 生物をお手本とするバイオミメティック材料 工学系研究科・教授 江島 広貴

人類は古来より、生物から様々なことを学び、生活に活かしてきました。近年、ナノテクノロジーと分子生物学が急速に発展したことで、生物のナノ・分子レベルでの理解が大幅に深まりました。本講義では生物をお手本にしたバイオミメティック材料研究の最近の展開をご紹介します。



15  
..  
35  
..  
16  
..  
25

## 総括討議 総合文化研究科・准教授 高見 典和

田中 東子／國分 功一郎／江島 広貴



# 10月25日(土)「人はどう生きるべきか」

13  
..  
00  
..  
13  
..  
30

## ユーダイモニアを情報理工学で追求する 情報理工学系研究科・教授 二瓶 美里

情報技術が社会を変革する現代、この技術を一人ひとりの「善き生」の実現にどう活かせるでしょうか。個人の成長支援や他者貢献を後押しする情報システムの可能性など、情報理工学がユーダイモニア達成に貢献する道筋を考察し、技術と人間性が調和した未来を探ります。



13  
..  
35  
..  
14  
..  
05

## 個人の生き方は法でどこまで尊重されるか 法学政治学研究科・教授 米村 滋人

近年、夫婦別姓や同性婚、医療・介護やプライバシー保護の問題など、個人の「生き方」に関わる問題が増えています。その種の問題について、憲法や民法が示す方針を解説し、具体的な問題の解決の方向性について考えます。



14  
..  
15  
..  
14  
..  
45

## 神経科学とコンピュータサイエンスの融合 定量生命科学研究所・教授 奥山 輝大

近年、脳機能を理解する神経科学と、そのメカニズムを応用するコンピュータサイエンスが少しずつ歩み寄り始めました。両者の融合によって私たちの未来がどう変貌しうるのか、科学技術発展の可能性とその倫理についてお話しします。



14  
..  
50  
..  
15  
..  
20

## AI・パンデミック時代に「ガバナンス」から考える「生き方」のデザイン 先端科学技術研究センター・准教授 武見 綾子

AIを始めとする新しい技術やパンデミックのような新たにつきつけられた課題は、私たちの生き方を大きく変えようとしています。本講義では、「ガバナンス」という視点から、技術革新がもたらすパラダイムシフトの中で、私たちがどのように主体的に未来を設計できるか、考えていきます。



15  
..  
35  
..  
16  
..  
25

## 総括討議 定量生命科学研究所・教授 胡桃坂 仁志

二瓶 美里／米村 滋人／奥山 輝大／武見 綾子



# 11月8日(土)「ありのままの姿」

13  
..  
00  
~  
13  
..  
30

## 二足歩行が形づくった『人間らしさ』

理学系研究科・教授  
荻原 直道



私たち人間は、なぜ二足で歩くのでしょうか?そして、その歩き方がどのように私たちの暮らしや心、生き方に関わっているのでしょうか?この講演では、「二足歩行」というヒトの独特な移動様式に注目しながら、人間の身体や脳、社会や文化とのつながりを探ります。

13  
..  
35  
~  
14  
..  
05

## 花する人間

東洋文化研究所・教授  
中島 隆博



近代西洋の存在神学に基づいた人間観とは異なる、他者と共に花する人間の可能性を論じてみます。それは、存在ではなく生成する出来事を、個人ではなく他者との共生を重んじるもので、相互変容が花する事態を見つめたいと思います。

14  
..  
15  
~  
14  
..  
45

## 生物はなぜ老い、そして死ぬのか

定量生命科学研究所・教授  
小林 武彦



「死」の起源を遡ると生物が誕生する前の段階まで行き着きます。矛盾するように聞こえますが、「死」は生物の「誕生」から関わっていたようです。一方「死」の前に訪れる「老い」については、「死」に比べるとかなり最近に現れた、しかもヒト特有のもののようにです。本講座では「老い」と「死」の意味について生物学的な視点から考えてみます。

14  
..  
50  
~  
15  
..  
20

## ただあるということ—東洋的な価値の再考

教育学研究科・教授  
高橋 美保



私たちは日々頑張って生きる中で常に何かをする(Doing)モードで生きていますが、それによる苦しみもあります。東洋文化の価値に根差したただ在る(Being)モードの価値の再考が必要だと考えています。

15  
..  
35  
~  
16  
..  
25

## 総括討議

理学系研究科・教授  
榎本 和生



荻原 直道 / 中島 隆博 / 小林 武彦 / 高橋 美保

16:25 ~ 16:35 閉講の挨拶 理事・副学長 津田 敦

### 【会場へのアクセス】

東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅 / 都営大江戸線 本郷三丁目駅 /  
東京メトロ千代田線 湯島駅・根津駅 / 東京メトロ南北線 東大前駅



# 受講申込方法

東京大学公開講座のwebサイトに「受講規約」等を掲載しておりますので、ご確認ください。

**【受付期間】**8月28日(木)13時～ 各講義日16時

**【定員】**各日:500名

**【受講料】**各日:3,000円(税込)

入金後は、いかなる場合があっても受講料の返金はできませんのでご注意ください。

**【申込方法】**インターネットからのお申し込みとなります。

東京大学公開講座のWebサイトにアクセスし、所定の手順に従ってお申し込みください。

高校生以下の方も事前申込が必要です(各日先着200名まで)。必ず下記サイトの【高校生以下(受講料無料)の方】申込フォームよりお申し込みください。

文京区ふるさと納税返礼品「公開講座申込券」をお持ちの方も、事前申込が必要です。必ず下記サイトからお申し込みください。

<https://sites.google.com/g.ecc.u-tokyo.ac.jp/publiclectures>

(東京大学ホームページ → 社会連携 → 一般見学・公開講座案内 → 東京大学公開講座)

**【支払方法】**クレジット決済、コンビニ決済のどちらかを選択いただけます。

クレジット決済のお支払い回数は、1回払いのみとなります。

1 東京大学公開講座のWebサイトにアクセスし、「概要・申込方法」のページ内にある「【一般の方】申込フォーム」より必要事項を入力の上、『クレジット決済』か、『コンビニ決済』のどちらかを選択します。

▼

2

## クレジット決済

お申込内容をご確認のうえ、  
カード情報をご入力ください。

## コンビニ決済

お申込内容をご確認のうえ、  
お支払するコンビニを選択してください。

▼

3

決済が完了しましたら、  
クレジット決済完了メールが届きます。

申込完了メールが届きます。Web画面上で表示されたお支払い情報を印刷、もしくはメモしてください。「お支払い方法はこちらへ」をご確認いただき、選択しましたコンビニのレジにてお支払いください。

▼

4

**講座当日は、前日までにメールでお送りする受講証を、会場での受付時にご提示ください。**

**※決済完了メール、支払い完了を証明するもの、身分証明ができるものをご提示いただく場合がございます。**

身分証の例(運転免許証、運転経歴証明書、住民基本台帳カード、社員証、学生証、保険証、マイナンバーカード、住民票、クレジットカード・キャッシュカード(氏名表記のあるもの)、公的料金証明書(支払い名義が本人のもの)など)

※注意:システムのメンテナンスを実施している期間には、お申し込いただけません。

# 案内・注意事項

本講座の撮影・録音・録画および資料の2次利用、詳細内容のSNSへの投稿は固くお断りいたします。

講演内容の盗用が発覚次第、著作権・肖像権侵害として対処させていただきます。

講堂内でのお手荷物の紛失、盗難等について、主催者は一切責任を負いかねますので、受講者ご自身で管理をお願いいたします。

講堂内での飲食はできません。また、会場内にゴミ箱はありませんのでゴミはお持ち帰りください。

やむを得ない事情によりプログラムを変更する場合がございます。ご了承ください。

安田講堂は、バリアフリー対応となっています。

障害等のため配慮が必要な場合は、受講日の3週間前までにお問合せ、ご連絡ください。

小学生以下の方が受講される場合は、保護者の方も一緒にご受講ください。

なお、保護者の方は【一般の方】申込フォームよりお申し込みください。

## 修了証書

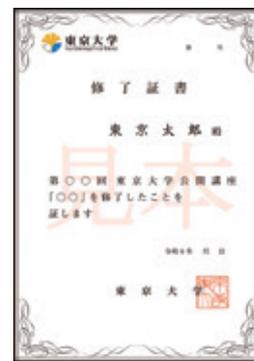
2日以上受講された方には、ご希望により修了証書を交付します。

修了証書を希望される方は、お申込画面で「修了証書を希望する」にチェックのうえ、

修了証書送付先の住所をご入力ください。

発送は12月中旬以降になります。

※受講料が無料の方には修了証書は発行しません。



### よくあるご質問

#### Q「 難易度はどのくらいですか? 」

講義内容の多くは初心者でも分かるものですが、一部専門知識を有する方向けの内容も含まれます。公開講座の受講者は、初心者から専門知識を持つ方まで、様々です。

#### Q「 事前に申込をしていますが、受講できますか? 」

事前のお申込が必要です(講座当日の申込可)東京大学公開講座のWebサイトからお申し込みください。

#### Q「 休講する場合がありますか? 」

台風などの荒天や交通機関のストライキ、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザの流行などにより、やむを得ず休講とすることがあります。この場合は、前日の午後5時までに、本学Webサイトに掲載いたします。Webサイトをご覧いただけない場合は、お手数ですがお電話でお問い合わせください。また、講師の急病・事故等により、やむを得ず休講とすることがあります。この場合は、決定次第本学Webサイトに掲載いたします。なお、上記の事由により休講となった場合は、可能な限り振替講座を行います。事情により開催できないこともあります。いずれの場合も、交通費・宿泊費等は補償できません。

#### Q「 講座の内容を録音・録画・撮影することはできますか? 」

講座の録音・録画・撮影等は、固くお断りいたします。

#### Q「 オンライン配信はされますか? 」

オンライン配信は実施いたしません。なお、すべての講座ではありませんが、後日、東大TV (<https://tv.he.u-tokyo.ac.jp/>) でご視聴できます。

#### Q「 Webサイトでの申込が難しいのですが、Webサイト以外で申し込むことはできますか? 」

申し訳ございませんが、本講座ではWebサイトでの申込としております。他の方法でのお申込はできません。

#### Q「 身分証として使えるものは何がありますか? 」

受講申込方法をご覧ください。リストに記載のないものでも受講されるご本人の氏名が分かるものであれば、身分証として有効です。不明な場合は、お問い合わせください。

#### Q「 友人や家族の分を申し込むことはできますか? 」

代理申込はご遠慮ください。トラブルの原因になりますので、原則、受講されるご本人がお申し込みください。

#### お問合せ

東京大学本部社会連携推進課

メール [ext-info.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp](mailto:ext-info.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)

TEL 03-5841-1610 受付時間: 平日9:00~12:00/13:00~17:00

東京大学では在宅勤務を実施しております。

ご不明点がありましたら、メールにてお問合せください。